

稲・大豆作情報 (NO. 10)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (9月1日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概 況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主 稈 出葉数	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)		8月6半旬は、高温(+0.5℃)で、日照時間は多く(147%)、降水量は少ない(0%) ◇平年と比べ「ヒヨクモチ」の草丈は平年並み。茎数は多い。主稈出葉数はやや少ない。葉色は薄い。 ★「ヒヨクモチ」は、幼耳間長-5~4.5cm。
さがびより 小城市芦刈町	6/20 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月31日 (平年より1日遅い)		
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.6株/m ²	本 年 平 年 平 年 比	80.9 79.7 (101)	532 490 (109)	15.4 16.1 (-0.7)	36.0 38.4 (-2.4)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H24~R3)の平均値

注3) 「夢しずく」「さがびより」は穂肥診断に基づき穂肥施用していない。

◆農業試験研究センター米づくり情報 11号 9月1日 (抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	概 況 (平年と比較して)	
6/20	ヒヨクモチ	本 年 (平 年) 平年比(差)	88.7 (84.1) (105)	587 (540) (109)	38.0 (38.8) (-0.8)	【気象】8月26~9月1日まで ◆平均気温…平年より0.5℃高い ◆日照時間…長い(平年比129%) ◆降水量…少ない(平年比14%)	
移植日	項目 品種	年 次	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	穂数 (本/m ²)	主稈 葉数	【生育】 「ヒヨクモチ」は草丈やや高く、茎数多かった。
6月17日	夢しずく	本 年	8/15	未	299	13.8	【主稈葉数】 「夢しずく」…平年よりやや多い 「ヒノヒカリ」…平年並み 「さがびより」…平年並み 「ヒヨクモチ」…平年並み 【出穂期】 「夢しずく」…2日早い 「ヒノヒカリ」…2日早い 「さがびより」…1日早い
		平 年	8/17	9/24	369	13.3	
	平年比(差)	-2	-	81	+0.5		
	ヒノヒカリ	本 年	8/25	未	-	14.4	
平 年		8/27	10/8	409	14.3		
平年比(差)	-2	-	-	+0.1			
6月20日	さがびより	本 年	8/31	未	-	15.2	【穂数】 「夢しずく」の穂数は少ない 【葉耳間長】 「ヒヨクモチ」で+7.1cmとなっている。
		平 年	9/1	10/13	377	15.0	
	平年比(差)	-1	-	-	+0.2		
	ヒヨクモチ	本 年	未	未	-	15.7	
平 年		9/6	10/29	450	15.9		
平年比(差)	-	-	-	-0.2			

○生育概況

6/中下旬移植の「夢しずく」は、乳熟期~糊熟期となっている。「ヒノヒカリ」は穂揃い期、「さがびより」は出穂~穂揃い期、「ヒヨクモチ」は9/10前後の出穂見込みで、平年並みと予想される。

2. 水稲管理

気象情報に注意し、圃場管理を行う。
台風時の水管理は【接近時：深水管理→通過後：水入れ替え】を実施する。

※海水の流入や潮風害を受けた場合

直ちに排水し真水と入れ替える。その後、かけ流しまたは少なくとも2～3回は水を入れ替え除塩し、生育の回復に努める。

※台風通過後は、受光体勢が乱れ病害虫が発生する可能性があるため、田廻りを行い早期発見に努める。

○共通管理

- ・全品種、水分ストレスに敏感な時期となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿潤（黒乾）状態を保つ。

○今週の管理

ヒヨクモチ

- ・穂孕み期を迎えている。
- ・「元肥一発くん」を使用した圃場で、極端に葉色が冷め、ごま葉枯病が多発生している圃場が見受けられる。N成分で2kg/10a程度（BB602 10～20 kg/10a）施用し、回復に努め収量確保を図る。ただし、いもち病や紋枯病、ウンカ類など病害虫の発生を助長する可能性があるため、施用後の発生状況には注意する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月16～17日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※「**全量元肥施用田（一発くん）**」において、穂肥Ⅰ～Ⅱの時期に **SPADで40を切る場合には**、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20 kg/10a）施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

◆ウンカ類

- ・今年の特イロウンカは、主に6/25、7/8、7/19の飛来が確認されている。
- ・管内のウンカ類は、9/1の調査において、一部圃場でヒメトビウンカやセジロウンカ中心であるが、若齢・中齢幼虫が0.3～0.7頭/株、成虫もわずかに確認されている（ヒヨクモチ）。
- ・地域・圃場によっては、発生パターン以外のステージの幼虫やトビロウンカも確認されていることから、必ず発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、丁寧に散布する。



・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半（図中 ★））である・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半（図中 ★））である。

発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、以下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にしてください。

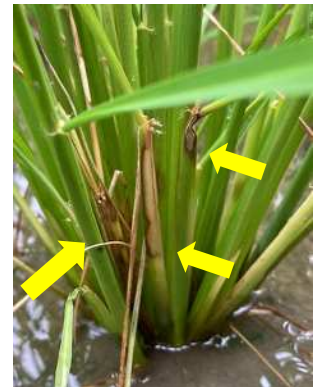
図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第4版、2022年8月22日作成）

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

- ・病害虫発生予察情報予報第6号（8/25発表）では、9月は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

◆紋枯病

- ・9月の発生量は、やや多い予測である。
- ・生育が良好で、過繁茂状態の圃場では、一気に進展する恐れがあるため、田廻りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展する前にバリダシン液剤（収穫14日前まで）等で防除を行う。



◆斑点米カメムシ類

- ・9月の発生量は、やや多い予測である。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより ヒヨクモチ	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除 ◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

3. 大豆管理

台風接近で降雨量が多くなれば、浸冠水が想定されるため、排水整備を徹底する。

※有明沿岸地域では潮風による塩害の恐れがある。

潮風を受け、台風通過後に降雨がない場合は、散水し塩分除去を行う。

また台風通過後は、葉の損傷により葉焼病が多発しやすく、早期落葉につながるため、発生状況を確認し、拡大予防のための防除も検討する。

○生育状況

6月下旬播種 若莢期～莢伸長期

7月上中旬播種 開花最盛期～着莢期

○排水路の整備

- 大豆の根は、水分ストレスに弱く、長時間の浸水やその前後の干ばつに大きく影響を受ける（早期落葉、小粒化など）。

台風が接近しており、局地的なゲリラ豪雨に備えるため、排水整備を行う。圃場内に長時間滞水することがないように、排水路まで畝溝をつなげておき、大雨後は速やかに排水できるようしっかりと整備を行う。

○雑草対策

- イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。
- アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

○病害虫対策

- ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガなど鱗翅目幼虫による食害が各地で発生し始めている。
- 葉の食害跡に注意しながら圃場巡回を行い、確認後は適正防除に努める。台風後は倒伏により、防除効果が十分でなくなる可能性が高いため、倒伏する前の防除を心がける。

ハスモンヨトウ・オオタバコガ・・・プレバソン・ペガサス

シロイチモジヨトウ・・・プレオ・ディアナ

- また、カメムシ類の発生が平年よりも多くなっているため、各圃場で発生状況を確認し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行う。
- 病害虫発生予察情報予報第6号（8/10発表）では、9月はカメムシが多いという予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

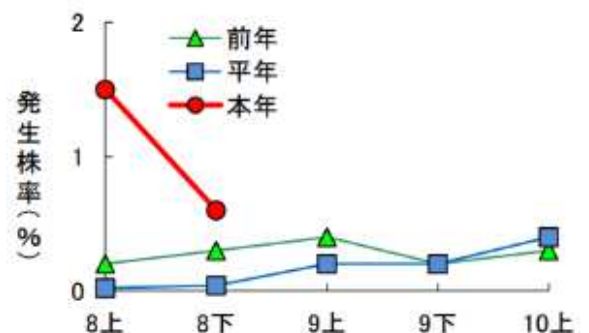
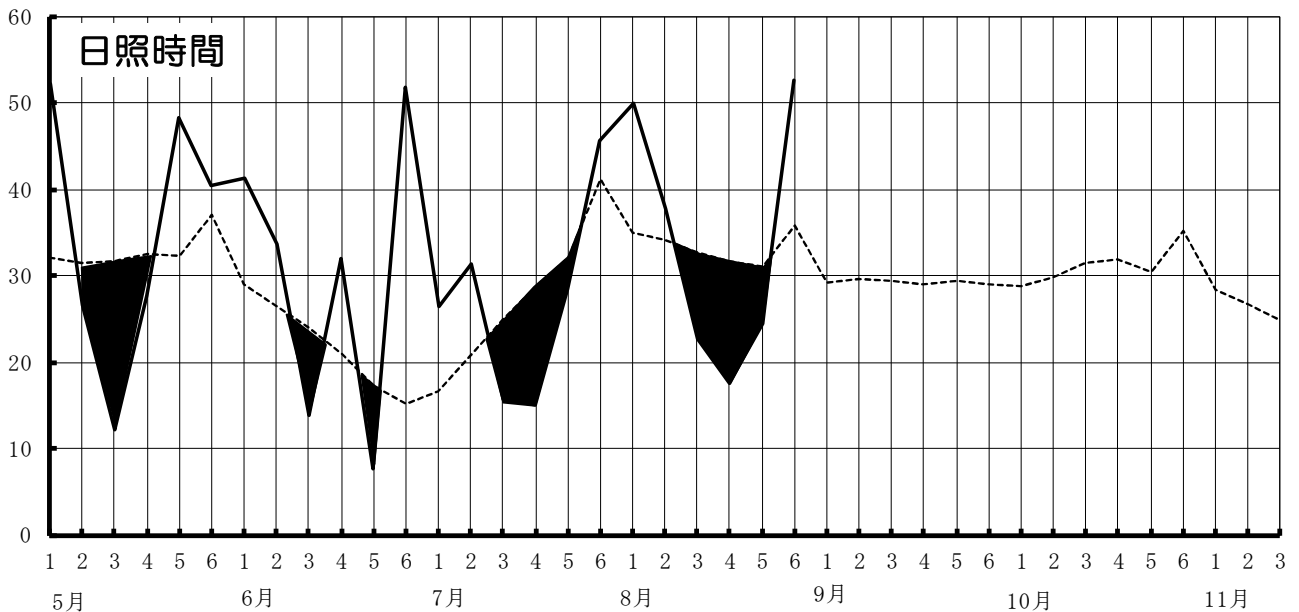
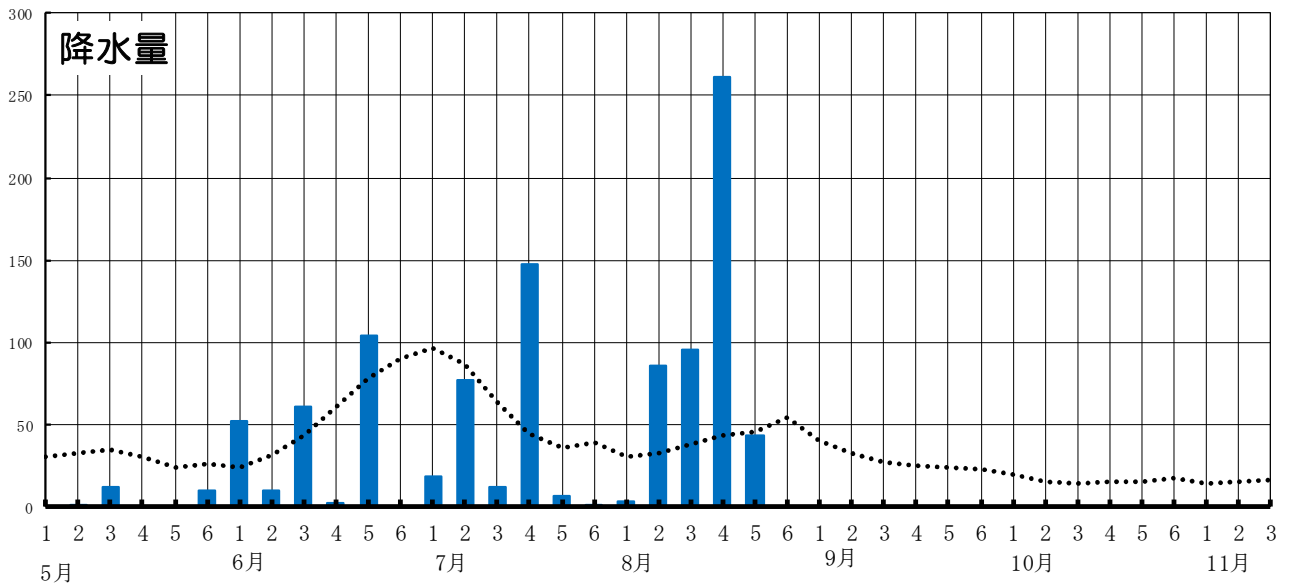
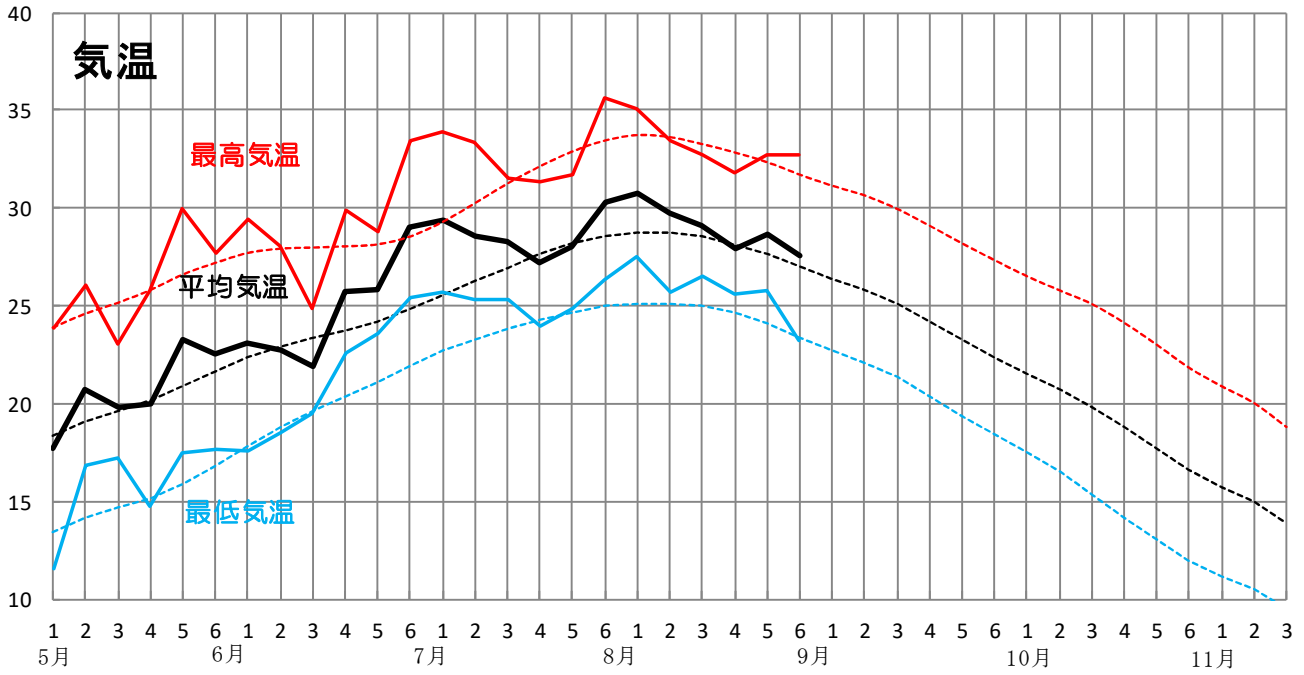


図2 大豆でのカメムシ類の発生推移
(病害虫発生予察情報予報第6号)

令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター



令和4年産 水稲の収穫期予想積算表【9月2日現在】

佐城農業振興センター

月	日・曜	平均気温		品種								
		平年値	本年値	夢しずく				ヒノヒカリ		さがびより		
		°C	°C	8/1頃出穂	8/12頃出穂	6/16移植 8/15頃出穂	8/17頃出穂	8/23出穂	6/20移植 8/26出穂	6/20移植 8/30出穂	9/1出穂	9/3 出穂
積算気温 最低値		平坦 880°C				平坦 900°C		平坦 900°C				
積算気温 最高値		山麓 1,050°C				山麓 1,050°C		山麓 1,050°C				
出穂後日数 最短～最長		33～39日				40～50日		40～45日				
黄熟割合 早限～遅限		75～90%				75～90%		75～85%				
籾水分 早限～遅限		26～23%				28～25%		27～22%				
8月	21 日	27.9	29.2	586	256	169	116					
	22 月	27.8	29.7	615	286	199	146					
	23 火	27.6	29.7	645	316	228	175	出穂期				
	24 水	27.5	27.1	672	343	256	203	27				
	25 木	27.4	27.7	700	371	283	230	55				
	26 金	27.3	26.2	726	397	309	256	81	出穂期			
	27 土	27.2	26.3	752	423	336	283	107	26			
	28 日	27.1	26.2	779	449	362	309	134	53			
	29 月	26.9	27.4	806	477	389	336	161	80			
	30 火	26.8	29.4	835	506	419	366	190	109	出穂期		
	31 水	26.7	29.6	865	536	448	395	220	139	30		
9月	1 木	26.6		892	562	475	422	247	166	56	出穂期	
	2 金	26.5		918	589	501	448	273	192	83	27	
	3 土	26.4		945	615	528	475	299	218	109	53	出穂期
	4 日	26.3		971	642	554	501	326	245	135	79	26
	5 月	26.2		997	668	580	527	352	271	162	105	53
	6 火	26.0		1,023	694	606	553	378	297	188	131	79
	7 水	25.9		1,049	720	632	579	404	323	214	157	104
	8 木	25.8		1,075	745	658	605	430	349	239	183	130
	9 金	25.7		1,100	771	684	631	455	374	265	209	156
	10 土	25.5		1,126	797	709	656	481	400	291	234	181
	11 日	25.4		1,151	822	735	682	506	425	316	260	207
	12 月	25.3		1,177	847	760	707	532	451	341	285	232
	13 火	25.1		1,202	872	785	732	557	476	366	310	257
	14 水	24.9		1,227	897	810	757	582	501	391	335	282
	15 木	24.8		1,251	922	835	782	606	525	416	360	307
	16 金	24.6		1,276	947	859	806	631	550	441	384	332
	17 土	24.4		1,300	971	884	831	655	574	465	409	356
	18 日	24.2		1,325	995	908	855	680	599	489	433	380
	19 月	24.0		1,349	1,019	932	879	704	623	513	457	404
	20 火	23.8		1,372	1,043	956	903	727	646	537	481	428
21 水	23.6		1,396	1,067	979	926	751	670	561	504	452	
22 木	23.4		1,419	1,090	1,003	950	774	693	584	528	475	
23 金	23.3		1,443	1,113	1,026	973	798	717	607	551	498	
24 土	23.1		1,466	1,137	1,049	996	821	740	630	574	521	
25 日	22.9		1,489	1,159	1,072	1,019	844	763	653	597	544	
26 月	22.7			1,182	1,095	1,042	866	785	676	620	567	
27 火	22.6			1,205	1,117	1,064	889	808	699	642	590	
28 水	22.4			1,227	1,140	1,087	911	830	721	665	612	
29 木	22.2			1,249	1,162	1,109	934	853	743	687	634	
30 金	22.1			1,271	1,184	1,131	956	875	765	709	656	
10月	1 土	21.9				1,206	1,153	978	897	787	731	678
	2 日	21.7				1,228	1,175	999	918	809	753	700
	3 月	21.6				1,249	1,196	1,021	940	831	774	721
	4 火	21.4				1,271	1,218	1,042	961	852	796	743
	5 水	21.2				1,292	1,239	1,063	982	873	817	764
	6 木	21.1						1,085	1,004	894	838	785
	7 金	20.9						1,105	1,024	915	859	806
	8 土	20.7						1,126	1,045	936	880	827
	9 日	20.6						1,147	1,066	956	900	847
	10 月	20.4						1,167	1,086	977	921	868
	11 火	20.2						1,187	1,106	997	941	888
	12 水	20.0						1,207	1,126	1,017	961	908
13 木	19.8						1,227	1,146	1,037	981	928	
14 金	19.6						1,247	1,166	1,056	1,000	947	
15 土	19.4						1,266	1,185	1,076	1,020	967	
16 日	19.2						1,285	1,204	1,095	1,039	986	
17 月	19.0						1,304	1,223	1,114	1,058	1,005	
18 火	18.8						1,323	1,242	1,133	1,077	1,024	
19 水	18.6						1,342	1,261	1,151	1,095	1,042	
20 木	18.4						1,360	1,279	1,170	1,114	1,061	

普及指導情報

「台風第11号の接近に伴う農作物等被害対策情報について」

令和4年9月1日

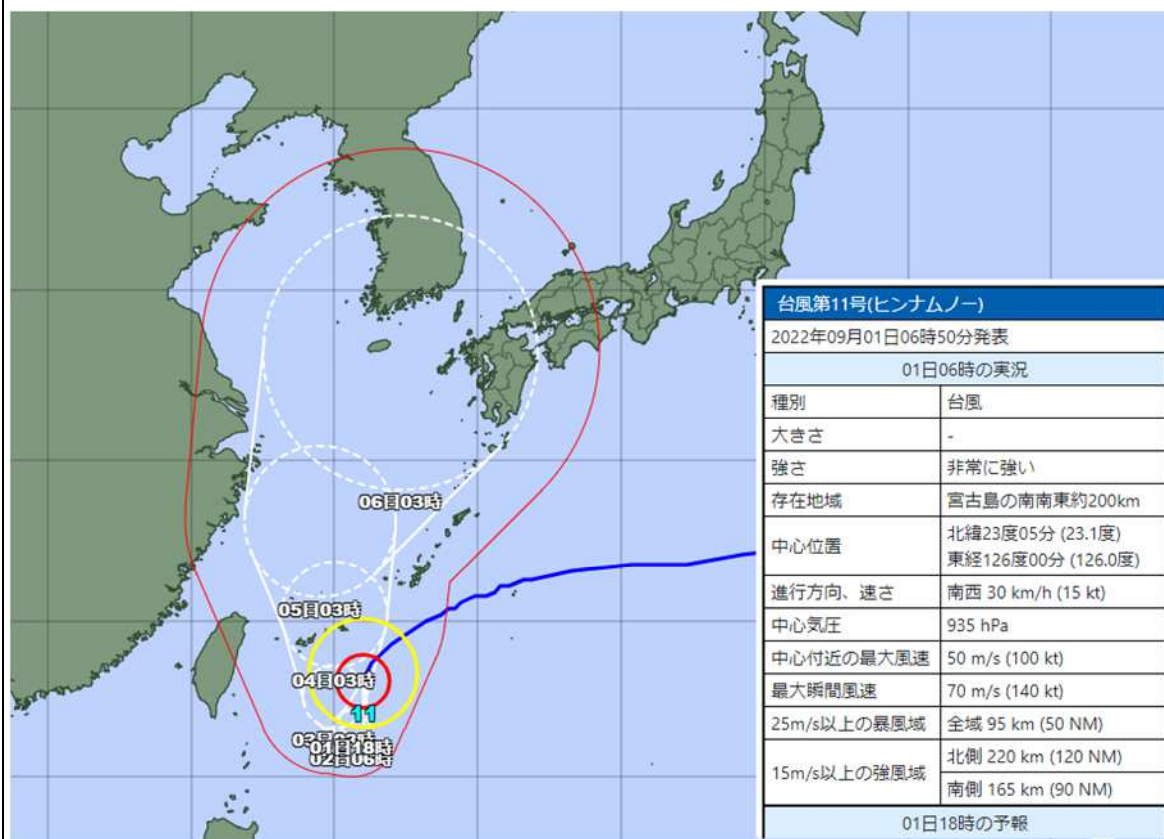
佐城農業振興センター
佐城農業指導者連絡協議会

(表題) 台風第11号の接近に伴う農作物等被害対策情報について

(担当) 佐城農業振興センター
佐城農業指導者連絡協議会

- 気象庁によると猛烈な台風第11号は、9月1日6時には宮古島の南南東約200キロの北緯23度05分、東経126度00分にあつて、1時間におよそ30キロの速さで西南西へ進んでいます。
 - 中心気圧は935ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は50メートル、最大瞬間風速は70メートルで、中心から半径95キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。
 - 今後の進路予報では、発達しながら南西へ進み、9月2日には沖縄の南にあり、その後は北よりに進んでいく予報となっています。このため、9月5～6日には佐賀県にも影響があるものと思われます。
 - 具体的な被害様相は、予想円の中心から右側を通過すれば、南東方向からの強風により、水稻大豆や移植後のキャベツ等で潮風害や倒伏、茎葉の裂傷等が予想されます。さらには、山麗地帯の果樹(カンキツ、落葉果樹等)でも同様の被害等が考えられます。過去の事例では、平成18年9月17日の台風13号※が今回と同じような進路で襲来し、本県では水稻大豆のほか、山麗地帯の果樹(カンキツ)でも著しい潮風被害が発生したところでした。
 - このため、台風に伴う農作物等被害対策を別添のとおり取りまとめましたので、被害を最小限に抑えるための現地指導を徹底してください。
- ※水稻作況指数「49」で潮風被害面積 水稻13,540ha、大豆4,440ha。中心気圧950ヘクトパスカル(佐世保市上陸時)、最大瞬間風速50.3m/秒を記録。

【参考データ】



I. 水稻

1. 生育ステージ

(2) 普通期水稻

- ①「夢しずく」 : 登熟中期～登熟後期
- ②「ヒノヒカリ」 : 乳熟期～登熟初期
- ③「さがびより」 : 出穂期～穂揃期
- ④「ヒヨクモチ」 : 出穂期前後

2. 技術対策

<普通期水稻「夢しずく」>

- (1) 登熟中の圃場では倒伏する可能性が極めて高く、圃場が落水状態であれば急性萎凋する可能性もあるため、湛水し蒸散増加に対応できるようにする。
- (2) 台風通過後は、一旦落水し、収穫まで1週間以上ある圃場では間断灌水とする。
倒伏した圃場では、排水に努め、登熟促進と穂発芽防止に努める。

<普通期水稻「ヒノヒカリ」・「さがびより」>

- (1) 強風による登熟阻害(乳白米、着色米などが増加し、品質の低下と共に千粒重も小さくなる)を軽減するため、できるだけ深水管理に努め、稲体の振動を少なくする。
台風通過後は間断灌水に切り替える。

<普通期水稻「ヒヨクモチ」>

- (1) 強風による稔実阻害(不稔、白穂などの発生)や登熟阻害(粃ズレにより病気や雑菌の感染)を軽減するため、できるだけ深水管理に努め、稲体の振動を少なくする。台風通過後は間断灌水に切り替える。
- (2) 台風通過後、曇天が続く場合は、穂枯れや穂いもちが発生しやすくなるため、発生には十分注意し、上位3葉に葉いもちの病斑があれば防除を実施する。

<共通対策>

- (1) 台風前・通過時は、深水管理を行うが、通過後は汚濁した水を排除し、新しい水と入れ換えるなど、水稻が回復するよう水管理に留意する。特に、海水の流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と換える。その後、掛け流しまたは少なくとも2~3回は水を換え除塩し、生育の回復に努める。
- (2) 台風通過後は白葉枯病の発生や被害が拡大する傾向にあるため、発生が認められる場合には、水稻に露が付着している時間帯は圃場に入らないようにし、被害が拡大しないようにする。
- (3) 台風通過後は受光体勢が乱れ、紋枯病及びウンカ等が多発する可能性があるため、台風通過後、発生には十分注意する。
- (4) 冠水した圃場は、水を入れ換え、根の機能維持に努める。

II. 大豆

1. 生育ステージ

- (1) 6月下旬に播種された圃場は、生育量も大きく、若莢期~莢伸長期である。
- (2) 7月上中旬に播種された圃場は、開花期~着莢期である。

2. 技術対策

- (1) 台風による大豆の被害は茎の損傷、葉の裂傷等があり、生育量・風速によっては倒伏する。倒伏した場合は、収量や品質が低下するので、できるだけ引き起こす。
- (2) 台風通過後は、葉の損傷により葉焼病が多発しやすく、早期落葉につながるため、台風通過前後に拡大予防のための防除も検討する(発生状況によって効果のある薬剤も変わるので注意する)。
- (3) 有明海沿岸では、潮風による塩害の恐れ(大豆の生育及び収量は、塩分の影響が極めて大きい。大豆は土壌中の塩分濃度が、0.03%でも著しい被害を受け、0.125%では収穫皆無となる)があるため、潮風を受けた場合は、台風通過後、散水し塩分除去に努めれば、被害軽減につながる。
- (4) 降雨量が多くなれば、生育量が小さい圃場では冠水が想定される。冠水時間が長引けば、被害が増加するので速やかに排水に努める。